



みなとのもり公園は、三宮を南側に進み、阪神高速道路を越えた場所にある(左上)。スケートボード、インラインスケート、BMXなどさまざまな競技で使えるコースも設けている(右上)、ローラーホッケーコート(右中)、ストリートダンス用のステンレスの鏡(右下)



★ ストリート系スポーツだけでなく、ランニング、バスケットボール、サッカーなどさまざまなスポーツが楽しめる



車輪が1列に並んだインラインスケートは、フィギュアスケートのように滑ったり、ホッケーをするなど多様な楽しみ方がある(上)。BMXで様々な技を決めるフリースタイルは迫力満点(中)。ストリートダンスのチームなどの練習場所にもなっている(下右)。馬の代わりにBMXでポロを楽しむ「バイクポロ」は女性も楽しむ(下左)



★ 写真提供: 大阪ハードコートバイクポロ

地域連携

CASE 3



みなとのもり公園
(神戸震災復興記念公園)

神戸・中央区

非常時に備えた公園に若者の活気を取り込む

兵庫県神戸市の中心部、三宮にある「みなとのもり公園」(神戸震災復興記念公園)。普段は多くの若者やファミリーがさまざまなスポーツにイそしみ、歓声が絶えない。非常時に備えた公園に、若者を含めた市民の活気を取り入れて、都市の防災力アップにつなげている。

★以外の写真=的野弘路 取材・文=岡田真奈美



ニュースポーツ広場でフリーラインスケートを楽しむ吉川美和子さん。日本フリーラインスケート振興会の代表、上田達士さん(左から3人目)も声援を送る

あと三つ、二つ、一つと、見物人がかたずをのんで見守るのは、女性スケーターと、1列に等間隔で置かれた三角形のコーン。一つも倒さず縫うように滑り切ると、大きな拍手が沸き起こった。

スケーターの足元を見ると一般的なローラースケートとは明らかに違う。「フリーラインスケート」といって、スケートボードを真ん中で割ったようなものです」と、日本フリーラインスケート振興会の代表、上田達士さんは説明する。

ここは神戸市のみなとのもり公園のニュースポーツ広場。JR三ノ宮駅徒歩15分の場所にある。この日の空は雨模様だったが、阪神高速道路下のスペースもあるののでぬれずに楽しむことができる。ナイター設備もあり、深夜0時まで利用可能。

フリーラインスケートは最近ファンが増え始めたストリート系スポーツの一つ。特別な競技場ではなく道路などで気軽に楽しめるストリート系スポーツは、若者を中心に愛好者が急増している。ただ、道路や公園で邪魔者扱いされることも多いという悩みがある。

それに対して、みなとのもり公園なら気兼ねなく、思いっきり楽しめる。フリーラインスケート以外にも、スケートボード、インラインスケート、自転車も自由自在に操るバイシクルモトクロス(BMX)競技など、さまざまなストリート系スポーツを楽しむ若者の歓声が絶えない。

みなとのもり公園には、芝生の広場もあり、サッカーなどを楽しむ利用者も多い。さらにその周囲は、1周約460mのランニングコースにもなっている。

将来の災害に備える公園

みなとのもり公園は愛称で、正式名称は神戸震災復興記念公園という。名前の通り、阪神・淡路大震災で被害を受けた神戸市が、その経験や教訓を後世に継承するために計画した公園だ。神戸のまちが復興から発展へと前進する姿を木々の成長とともに見つめていくという思いが込められている。神戸市とUR都市機構が事業主体になり2010年1月に開園した。公園の場所がかつてJR貨物神戸港駅だった。そこで使われていた

地域のニーズに合わせた 防災公園をつくる



桃井原っぱ公園

東京都杉並区のJR西荻窪駅北口から徒歩20分の場所に「桃井原っぱ公園」がある。その名前の通り、約4haの公園に広大な「原っぱ」が広がる。特別な遊具などがない広々とした空間がcaえって新鮮で、都内にいることを忘れてしまうほど。この公園もUR都市機構が手掛けた防災公園の一つ。公園内には耐震機能を持つ貯水量100tの地下貯水槽2基や、非常用防災トイレになるマンホールが70カ所も設けられている。

UR都市機構ではこのように地域のニーズや要望に合わせた防災公園街区整備事業をこれまでに全国で20カ所手掛けている。



公園の清掃や草刈り、枝打ちもできるだけ利用者自身が行うようにしている(左上)。そうした作業で出た枝を備蓄して、炊き出しの燃料に使っている。使うコンロや食器なども公園内の倉庫に準備している(右上、左下、倉庫の場所はMAPの⑤)

人が公園を育て、公園が人を育てる

神戸市建設局公園砂防部
管理課 東野 太 整備担当課長(左)
計画課 福田英明 計画係長(右)



みなとのもり公園は、構想段階から市民と行政が一体になって整備・検討を進めてきました。市民参画型の公園づくりは開園後も続き、いまでは継続的に公園を利用しているグループと行政が一つのネットワークでがっちりつながっています。

ここでは、東日本大震災で甚大な被害を受けられた自治体をはじめ、全国から大勢の方が視察に来られます。参考にさせていただくことがあるとすれば、単なるメモリアル公園をつくるのではなく、将来的に活用し続けられる公園になるよう、人のネットワークを絡めながらハードウェアを整備していくことかと思えます。人が公園を育て、公園が人を育てる。これが管理運営に携わる私たちが思い描く理想像です。

練習するためでなく、掃除のために集まったダンスサークルの大学生(右)。通常、業者に任せる草刈りも市民の手で行っている(下)



① 非常用発電施設

エネルギー関連では200kW級の自家発電施設などを備える



② 手動ポンプ

水関連では200tの地下貯水槽や、それにつながった手動ポンプなどがある



通路部分の62基のマンホールはテントを張れば簡易個室トイレになる

③ 災害用仮設トイレ



④ 安全の鐘

JR貨物神戸港駅で使われていた時計に鐘を組み合わせたモニュメント



⑤ 備蓄倉庫



備蓄倉庫には毛布2000枚、飲料水2016本などを備える

みなとのもり公園 MAP

みなとのもり公園では、災害時に備えてさまざまな設備を設けている。水、電気、食料、毛布、炊き出し用品など生活に必要なものがひと通りそろっている。



ストリート系スポーツを取り入れる際、力を尽くした佐藤由美子さん(右から2番目)。現在もさまざまな種類のストリート系スポーツのメンバーと意見交換を重ねている



公園づくりのスタートから現在まで、みなとのもり公園を見守り続けている辻信一さん

もちろんストリート系スポーツのメンバーもこうした活動に参加している。佐藤さんは清掃の日に参加したダンスチームのメンバーに、語り掛けた。「清掃の日だけでなく、毎回5分だけでもゴミを拾って。常に綺麗にしてあげばゴミを捨てる人が少なくなるから。あなたたちができることをダンスみたいに表現して。阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた神戸から、『私たちもちゃんと生きてます』と伝えれば、それが東北の復興支援につながるのよ」。

「最初の計画では、高速道路の下部分は駐車場でした。もっといい利用法がないかと検討する中で、大勢の若者が集まり活気が出る利用法として、ストリート系スポーツというキーワードが浮上りました。しかし神戸市や私は、ストリート系スポーツのことをよく知りませんでした」

そこで加わったのがNPO法人北神戸園ボランティアネットの理事長、佐藤由美子さん。神戸市内の別の公園でスケートボードなどが楽しめるスケートパークづくりに取り組んだ経験を持っていた。

「競技スポーツの目的は勝敗や記録という数字。ストリート系スポーツは、若い子が生きていくための文化。あまりよくないイメージを持たれてしまうこともあるけれど、私に言わせればストリート系スポーツをしている若者はみんなかわいらしい。そして、いざというときにはものすごい力を発揮してくれます」と佐藤さん。

「ニユースポーツ広場の計画では実際にストリート系スポーツを楽しむ若者の意見を反映しました。路面の素材などについても」

R都市機構に意見を取り入れていただきました」(辻さん)

みなとのもり公園のもう一つの特徴は、利用者が管理・運営に積極的に関与していること。開園以来月に1度、開催している運営会議には、ストリート系スポーツの代表者も参加している。そこで自分たちに何ができるかを考えて提案し、活動している。その結果、清掃や草刈りなどは極力利用者が行うようになった。

「公園を大切に思っていて、愛着を持つ若者がたくさんできました。そうした若者が管理・運営だけでなく、炊き出しなど防災訓練に積極的に参加してくれるようになりました。この積み重ねがいざというときに役に立ちます」と辻さん。

防災公園は設備を用意しただけでは力を発揮できない。それを使う、人の協力が不可欠だ。ストリート系スポーツなどを通して公園への関心を深め、運営に参加する市民を育てるみなとのもり公園の取り組みは、防災力アップを目指す東日本大震災の復興まちづくりの大きなヒントになるだろう。

時計が中央に設置されている。時計は午前5時46分 阪神・淡路大震災の発生時刻で止まったまま。その下に鐘が付けられ、大震災の経験と教訓を後世に伝えるモニュメントになっている。

みなとのもり公園は、こうしたメモリアルとしての役割に加え、災害に備えた防災公園としての役割も担い、多くの設備を持つ。例えば通路部分に並ぶマンホール。テントを張れば仮設トイレになる。ほかに備蓄倉庫や非常用発電施設などが配置されている(下図参照)。

「競技スポーツの目的は勝敗や記録という数字。ストリート系スポーツは、若い子が生きていくための文化。あまりよくないイメージを持たれてしまうこともあるけれど、私に言わせればストリート系スポーツをしている若者はみんなかわいらしい。そして、いざというときにはものすごい力を発揮してくれます」と佐藤さん。

「ニユースポーツ広場の計画では実際にストリート系スポーツを楽しむ若者の意見を反映しました。路面の素材などについても」